

ごみ・流木調査 本調査の進め方

1. ごみ・流木調査の目的

- 河川管理者や海岸管理者、市民団体等が流域圏で一体となって調査を実施する
- 出水後のゴミや流木の実態を把握し、情報共有する
- ゴミ等の状況を生物への影響や発生源の観点からも調査
- 自然分解されにくい人由来のゴミとともに、自然由来の流木やヨシの状況などを把握し、情報を蓄積することで、将来的な対策方法と対策場所、地域での対応方法（個別の対応もしくは連携）などを話し合えるような発展を期待する
- 矢作川流域圏での取り組みについて、他の流域の活動者等とも情報交流し、伊勢三河湾全体の漂着ごみへの対応を強化する



矢作川流域の連携のきっかけづくりとする

2. 本調査 実施要項

日 程：2013年9月の出水後3日以内（9月27日に実施）

場 所：矢作川下流域（出水後、事務局の巡視により、矢作川左岸16kに決定）

調査概要：自然由来ごみ（流木など）の量、発生源等の調査

人由来ごみの量、種類、発生源等の調査











3. 調査方法

① ベンチマーク写真を撮影する

- ・ゴミ等の集積代表地点を 10×10m 枠取りして写真を撮影し、ベンチマークと対比する。

■ ベンチマーク写真

ゴミ袋数	見通しの良い状態	ゴミ袋数	見通しの良い状態
20L ゴミ袋数 0【袋】		20L ゴミ袋数 2【袋】	
20L ゴミ袋数 1/4【袋】		20L ゴミ袋数 4【袋】	
20L ゴミ袋数 1/2【袋】		20L ゴミ袋数 8【袋】	
20L ゴミ袋数 1【袋】		20L ゴミ袋数 16【袋】	

出典：河川ごみ調査マニュアル（国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 平成 24 年 3 月）

② 自然由来ごみをチェックする（調査票(2)-1）

- ・ゴミ等の集積代表地点 10×10m の中にある、自然由来のゴミの発生源を、目視で山、川、川（ヨシ）に分類し、その割合をチェックする。

③ 人由来ごみをチェックする（調査票(2)-2）

- ・ゴミ等の集積代表地点 10×10m の中にある人由来のゴミを 20L ごみ袋に換算して（1×1m に並べる）、ランク 0（0 袋）からランク 10（128 袋）までの 12 ランクで評価する。

■ 目視によるゴミ量等の簡易判定（20L の目安）



出典：河川ごみ調査マニュアル（国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 平成 24 年 3 月）

調査票 (1)

基本情報		備考
調査日	平成 年 月 日	
調査時刻	午前・午後 時 分	
調査地点名		
調査地点 k p	() Kp	河川調査の場合
調査者		
調査地点	(地点に○)	

調査票 (2) - 1

流木調査項目	調査地点 ()		
流木等の漂着状況	発生源別の流木の混在割合		
	山	川	川 (ヨシ)
	%	%	%
流木の特徴をチェック	A. 漂着物の状況 (時間経過)	()	—
	B. 人工林・自然林、その他の別	()	—
状況写真	(遠景)		(近景)
	樹種が判別できたものの名前		
調査総評コメント欄			
現場で感じた解決のためのアイデア			

流木の特徴をチェック

A. 漂着物の状況 (時間経過)	1	樹皮、枝葉が確認され、漂流後間もないもの
	2	樹皮等は確認されず、時間をかけて漂流したもの
B. 人工林・自然林、その他の別	1	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた樹形のまっすぐな人工林
	2	まっすぐな樹形かつ切断面が明確な間伐木
	3	切断面は明確だが、まっすぐでない人工林以外のもの
	4	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた灌木等
	5	その他 ()

※調査票は、実施の結果を受けた改善提案に基づき、改良・反映のPDCAサイクルにて運用。

調査票 (2) - 2

ゴミ調査項目	該当欄にチェック	調査地点番号 ()	
人由来ごみ ゴミの種類	チェックシート		
	発見できたごみ		
	生活系ごみ	<input type="checkbox"/> 1. 飲料用プラボトル	<input type="checkbox"/> 6. 飲料缶
		<input type="checkbox"/> 2. 食品の包装・容器・トレー	<input type="checkbox"/> 7. 飲料ガラス瓶
		<input type="checkbox"/> 3. 紙バック	<input type="checkbox"/> 8.ライター*
		<input type="checkbox"/> 4. ふた、キャップ*	<input type="checkbox"/> 9. その他生活系
		<input type="checkbox"/> 5. 袋類 (農業用以外) *	
	漁業系ごみ	<input type="checkbox"/> 10. 釣り具 (オモリ) *	<input type="checkbox"/> 12. 釣り具 (ルアー等) *
		<input type="checkbox"/> 11. 釣り具 (針、糸) *	<input type="checkbox"/> 13. その他漁業系 (網等) *
	事業系ごみ	<input type="checkbox"/> 14. 木材等	<input type="checkbox"/> 16. 農業、肥料袋*
<input type="checkbox"/> 15. 苗木ポット			
その他	<input type="checkbox"/> 17. 硬質プラスチック片*	<input type="checkbox"/> 18. ガラスや陶器片*	
	<input type="checkbox"/> 19. 発泡スチロール片*	<input type="checkbox"/> 20. 金属片	
	<input type="checkbox"/> 21. シート、袋の破片*		
上記以外	<input type="checkbox"/> 名称: ()	<input type="checkbox"/> 名称: ()	
	<input type="checkbox"/> 名称: ()	<input type="checkbox"/> 名称: ()	
ゴミの量	ランク ()	目視・写真判定可	
発生場所の参考記載の有無	・住所、電話番号、その他の記載 ()		
状況写真	(遠景)		
	(近景)		
調査総評コメント欄			
現場で感じた解決のためのアイデア			

※生物への影響のあるごみ

4. プレ調査の実施結果

海部会 WGにて、ごみ・流木調査のプレ調査を実施しました（ニュースレターvol.3 参照）。

日 時：平成 25 年 7 月 20 日（土）

活動場所：佐久島白浜海岸

目 的：本調査に向けて、調査票の有意性や実施方法などについて検討すること

■調査風景



■調査結果

- ・10m 四方内の流木の割合は、山発生 3%、川発生 3%、川発生のヨシ 94%であった。
- ・10m 四方内の人由来ごみは、20L ごみ袋 3 袋分で、内訳は以下ようになった。
- ・人由来ごみの中には、ライターなど発生源を推定できるものもあった。

	No. 1	No. 2	No. 3
写 真			
人 由 来 ご み	<p>【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、キャップ、袋類、飲料缶、飲料ガラス瓶、ライター 等</p> <p>【漁業系ごみ】漁業系</p> <p>【事業系ごみ】木材等</p> <p>【その他】硬質プラスチック片、発泡スチロール片、シート、ガラスや陶器片 等</p>	<p>【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、キャップ、袋類、苗木ポット、おもちゃ、ライター 等</p> <p>【漁業系ごみ】漁業系</p> <p>【その他】硬質プラスチック片、シート 等</p>	<p>【生活系ごみ】飲料用プラボトル、食品の包装・容器、生活雑貨、キャップ、袋類、苗木ポット 等</p> <p>【漁業系ごみ】漁業系</p> <p>【事業系ごみ】木材等</p> <p>【その他】硬質プラスチック片、シート、スプレー缶、クッション 等</p>
生 物 影 響 ご み	<p>プラスチック破片(23)、ペットボトルのキャップ(13)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(10)、ガラス破片(6)、食品の包装・容器(6)、空き缶(3)、使い捨てライター(2)、ロープ・ひも状のゴミ(2)、発泡スチロール(1)、ペットボトル(1)、ピン類(1)、ガラス・陶器(1)、プラスチック容器(1)、車両部品(1) 等</p>	<p>プラスチック破片(35)、ペットボトルのキャップ(18)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(14)、ペットボトル(6)、プラスチック容器(6)、ロープ・ひも状のゴミ(4)、タバコの吸い殻・フィルター(3)、漁網(1) 等</p>	<p>プラスチック破片(80)、シート状のゴミ(ビニール袋・布・衣類など)(20)、ペットボトルのキャップ(7)、ロープ・ひも状のゴミ(6)、木製品(3)、タバコの吸い殻・フィルター(1)、ペットボトル(1)、スプレー缶(1) 等</p>